

13. 病虫害防除基準（水稲・野菜）に採用した 殺菌殺虫剤の防除効果

1. 背景とねらい

新規農薬は公的試験研究機関等で、防除効果・安全性・使用方法及び地域適応性等が試験されており、その結果は、農薬登録認可の基礎資料となっている。農業技術センターでは農薬散布作業の省力化、難防除病虫害や新発生病害虫に対する有効な薬剤および臭化メチル代替剤の検索等に主眼を置き、各種の試験を分担、実施している。

2. 成果の内容

平成21年度広島県病虫害防除基準に新規に採用した農薬のうち、イネいもち病およびイネ紋枯病が1剤で同時防除可能な新規剤の防除効果は、次のとおりである。

- 1) イネの葉いもちに対して、嵐スタークル箱粒剤は対照薬剤と同等の防除効果で、無処理と比較して防除効果が高く、実用性が認められた。穂いもちに対しては、対照薬剤に比べて防除効果が高く、無処理と比較して防除効果が高く、実用性が高かった(表1)。
- 2) イネの紋枯病に対して、嵐スタークル箱粒剤は対照薬剤に優る防除効果で、無処理と比較して防除効果が高く、実用性が高かった(表2)。

3. 利用上の留意点

- 1) 農薬の選択に当たっては、「平成21年度広島県病虫害防除基準（広島県農業情報ローカルネットワークシステム<http://www.f-net.naka.hiroshima.jp/>）」によるとともに、詳細の問い合わせ窓口は、農業技術センターまたは各農業技術指導所防除班である。
- 2) 農薬の登録内容は随時更新されるため、最新の使用方法・使用基準を農林水産消費安全技術センターホームページ「農薬登録情報検索システム（<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>）」により確認する。

(生産環境研究部)

4. 具体的データ

表1 嵐スタークル箱粒剤によるイネいもち病防除効果 (2006年)

供試薬剤	葉いもち (7月21日) ¹⁾			穂いもち (9月4日) ²⁾			薬害
	発病株率 (%)	病斑面積率	防除価	発病穂率 (%)	被害度	防除価	
嵐スタークル箱粒剤	0.7	0.002	99	1.1	0.3	97	-
(対照)Drオレゼブ° リンス粒剤10H	5.3	0.016	94	3.4	1.4	86	-
無処理	28.7	0.266		18.9	10.3		

* 薬剤処理は、播種時覆土前 (4月28日)に育苗箱当たり50g散布した。

1) 葉いもちは1区3ヶ所, 1カ所100株について調査した。防除価は病斑面積率から算出した。

2) 穂いもちは1区3ヶ所, 1カ所20株について調査した。防除価は被害度から算出した。

表2 嵐スタークル箱粒剤によるイネ紋枯病防除効果 (2006年)

供試薬剤	処理月日 処理量	7月21日		8月11日		9月11日			圃場 被害度	防除価 ¹⁾	薬害
		発病株率 (%)	病斑高率 (%)	発病株率 (%)	病斑高率 (%)	発病株率 (%)	病斑高率 (%)	株被害度			
嵐スタークル箱粒剤	4月28日 (播種時覆土前) 50g/箱	0.7	6.5	8.3	26.1	7.0	59.9	64.6	4.5	91	-
(対照) ビルダ° プ° リンス グレートム粒剤	5月17日 (移植当日) 50g/箱	0.3	7.1	9.0	27.0	16.0	55.4	57.4	9.3	82	-
無処理	-	48.0	25.5	80.0	31.1	69.3	65.3	73.4	50.8		

1) 9月11日の圃場被害度から算出した。